

### 3 学習上の留意点

- ・水を扱うので、教室ではなく理科室や家庭科室などの水道が使える教室で行うと、活動を進めやすい。
- ・1人で水をこぼさないように別の容器に移すことは、2年生では難しいことである。そこで4人グループを作り、協力して正確に活動できるようにする。
- ・水の深さと底の広さによって、容器に入る水の量に違いが見られることに気付かせるような支援をする。
- ・水面に合わせて正確にビニールテープを貼ることができるように、水平なところに置いているか確認する。また、ビニールテープをどのように貼ればよいかを手本を示すとよい。
- ・使用する容器は、子供が普段使っているものを用意して、子供の興味や関心を高めたい。
- ・大きさは5Lまでくらいのものでよい。5Lほどであれば、経験から予想できる。

### 4 学習の効果

- ・「お茶入れは細いから（水の高さは）高い」「四角の水槽は底が広いから（水の高さは）低い」というような発言がある。いろいろな容器で実験してみたことで、底の広さによって、容器に入る水の深さに違いがおきることに気付くことができる。
- ・1Lますで何度も水を移す活動を取り入れることで、子供たちは水筒やバケツなど水かさを測る場面で1Lを基準に考えることができるようになる。また、1Lますの形や大きさを知ることによって、およそのかさを予想することができるようになる。
- ・「かさあてゲーム」を行うことで、主体的に参加しようという態度が見られる。
- ・4人グループで活動することで、「1Lますと比べて多いんじゃない?」「減らそうか?」などという子供たち同士の会話が生まれ、積極的なコミュニケーションをとる姿が見られる。